視点

# アナリストへのエール

## ―「サステナビリティ」と「個の確立」―

日本投資顧問業協会　会長
（日本証券アナリスト協会　前会長）
大　場　昭　義 CMA

新型コロナウイルスに世界中が翻弄されて、はや１年が経過した。マスク、手洗い、密を避け、個食と黙食が日常化した毎日である。徐々に慣れてきたとはいえ、不自由を感じざるを得ない。人間の営みがいかに不要不急で成り立っているか、実感する日々が続いている。仕事もオンライン化が進み、在宅勤務も当たり前になった。ヒトが移動しなくても仕事が進むため通勤地獄からの解放、国内外問わず出張は激減、時間の有効活用という利点もある一方、多くの方が指摘しているように会議の質の低下は否めず、改善に向けた模索が続いている。大学も授業は基本オンラインで学生はキャンパスに通えず、教授や学生仲間とリアルで議論を交わすことが制約された生活である。このように現在は、多くの人々にとって従来の延長線上にはない生活が日常化し、社会全体が大きな転機を迎えているように感じる。今日に至るまでの歴史を簡単に振り返り、新たな時代の課題を整理しアナリストへの期待を展望してみたい。

冷戦の終結で平和の配当に期待を膨らませた21世紀に入って二十余年。期待とは裏腹に、現実には度重なる豪雨や地震など自然災害の猛威にさらされる一方、格差の拡大による社会の分断、加えて今回の感染症によるパンデミックは人類を深刻な危機に陥れている。同時に、社会の基盤を成す資本主義や民主主義への信認が低下するという難題も引き起こした。

©日本証券アナリスト協会　2021